



古今和歌六帖標注

二

特別
イ 4
3163
97(2)



かまほ

野

いふおほむら

そほづ

まの野

まの野

秋の野

まの野

さよの野

かま

ま

ま

大野

小野

ま

ま

らづら

大野

小野

野

みま

都

こやま

都

ま

田舎

くま

ま

ま

ま

やど

家

やど

かま

家

ま

井

ま

屋

ま

かど

ま

すちま

ま

ま

人

おき

わんま

おや

うま

ま

ま

ま

うま

佛事

寺

かぬ

ほ

あま



山

人麻呂

万葉三 生石村主真人

大汝少彦乃乃擲座志都乃乃石室者

幾代持經

契沖云神代紀大己貴命少彦名

命とともて天下を經營し給ふは

あれはかくあふべききあるべし

おのりまむら 拾神樂 人丸集 まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

みむら 同 ちひしき拾九 大和 のり

ひくまろ

い 同 きり まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

人丸

万葉は金山とありてはきこやゆや

よめりそれよろし

春秋繁露云金者秋殺氣之始也

文選張景陽雜詩云金風扇素節李

善注云西方為秋而主金故秋風曰

金風

万葉は小田事とありて主の字お

契沖云万葉異本及六帖小事

主とありてよろし

か 同 おろ まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

い 同 おろ まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

い 同 おろ まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

傳未詳

は 同 おろ まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

は 同 おろ まじり拾九 紀伊 ぞうれき拾

古今秋下
主河川... 神...
...の山...
古今總四 典侍...
契沖云...
...の山...
古今總四 典侍...
...

軍防令云九置閔應守固者並置配
兵士分番上下其三閔者設鼓吹軍
器云義解云三閔者謂伊勢鈴鹿
美濃不破越前愛發等是也
武士多...
...

和名抄三河國渥美郡知名に高麗
多加...
紀行...
...

た...
...
仲實朝臣綺語抄云已母理久乃波
都世...
...

古今...
...

契沖云...
...の山...
古今總四 典侍...
...

大和...
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫雜三山人九集
...
...

夫春五時子鳥ハ夫 海の波を待たぬ心はつらきものなり

人麻呂

万九 奥 山城 人麻呂 かの使をせしむる

大雅二山人ハ夫 かの使をせしむる

同 陸奥 筑前 かの使をせしむる

山城 小倉山 かの使をせしむる

山城 小倉山 かの使をせしむる

山城 小倉山 かの使をせしむる

山城 小倉山 かの使をせしむる

山城 小倉山 かの使をせしむる

山城 小倉山 かの使をせしむる

万四家持 新拾遺四 若狭 かの使をせしむる

素直

後松平素直家 拾遺貫之 貫之集 第六重出

万七 大雅二山人 第三重出

倉橋の山に雲ありて人かたむけのありぬ

後松平素直家 拾遺貫之 貫之集 第六重出

古雅下 いね古 かの使をせしむる

夫雅二山人 かの使をせしむる

夫春三賞 又六山安 かの使をせしむる

夫春三賞 又六山安 かの使をせしむる

万葉九 春日歌 照月夜 雲影 鳥陰 雨 吾 船 將 極 留 不知毛

伊勢集

後換總六

契沖云 山ハ美濃 近江 山ハ美濃 近江

六百番歌合寄山戀 頭昭
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

永久四年百首 大進
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

古今冬
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

新續古秋下貫之家
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

後秋下友則家
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

代意三下人
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

山城
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

夫雜二山
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

丹波
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

古雜上伊大家 山城
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

大さや小坊
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

第一巳出
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

後秋下 但馬 の家
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

第一巳出
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

契沖云かとの山まかち三笠山
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

新古意五
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

万土 拾遺三朝人
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

あやむねのあまのこ

万葉七
庭津鳥可羅乃
毛不所念鴨

夫雜九山鳥
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ
あやむねのあまのこ

今抄... 山... 花... 鹿... 鹿角解

翻譯名義集畜生篇云摩斯叱或末
迦叱此云彌猴
白居易感傷詩云三聲猿後畫柳渡
一葉舟中載病身云云
藝文類聚引宣都山川記云巴東三
峽猿鳴悲猿鳴三聲淚露衣
是則集
新山の...
契沖云万八崗本天皇...
正一九小雄略天皇の御製とせらる

月令云仲夏之月鹿角解

此... 鹿... 鹿角解

夫雜山... 紀伊

為京後... 中納言有德男

古書 新拾... 古新

猿

童... 童

みんね

古諺 家朗... 家朗

家... 家

まの

万八崗本天皇御製又九續古秋... 山城

人ま

万四 新古意五家 夏野條重出

古秋上... 古

万十... 整万

夫秋三鹿... 夫

古諺 紀... 古

定... 左少将平好風男

万十 續古秋下人... 古本人九集

の續古本... 續古本

やけ續束... 續束

同... 同

友和

後秋下... 續古終下友則家
後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

和名抄毛群名云本草云鼯鼠... 似蝙蝠云

後秋下... 續古終下友則家
播磨

古今集 萬葉集 新古今集 新古今集

古今

古今集 萬葉集 新古今集 新古今集

兼盛集

兼盛集 萬葉集 新古今集 新古今集

古今集 萬葉集 新古今集 新古今集

古今集 萬葉集 新古今集 新古今集

山田

古今集 萬葉集 新古今集 新古今集

古今戀五

古今戀五 萬葉集 新古今集 新古今集

万田紀女郎

万田紀女郎 萬葉集 新古今集 新古今集

代秋下家

代秋下家 萬葉集 新古今集 新古今集

古今

第六帖

第六帖 萬葉集 新古今集 新古今集

新古今集

新古今集 萬葉集 新古今集 新古今集

山田

後撰夏 藤原雅正
花をのりてしるしをせりしつら
よのつらきつらつらつらつら

源氏未摘花巻云云のたぐやま
はつらつらつらつらつらつら

源氏未摘花巻云云のたぐやま
はつらつらつらつらつらつら

契沖云はの人あつたての時よ
へつらつらつらつらつらつら
秋の体はあつた

山がなほあつたしつらつらの中あつたつらつらつらつらつらつら
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

古春上在原棟梁寛新万後六
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

同 新古今
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

同
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

古秋上志琴家
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

古冬源宗十家即卅
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつら

後撰二 伊家
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

山の井

万十六葛城王大 夫雑三山
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつら

古離別 拾雅意 新撰家
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

河若紫
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

拾雅意貫之家
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

續後徳五興風
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

つらつら

後撰二
つらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつらつら

わ掛きよふひこひひきの急待あり
万葉九不足日木乃山響令動と見え
由響とひくことよめハハもひひまな
まはら又ハハ山妣姑乃相響左右
とすハ儀さよよもとせ
譚子化書大舍篇云谷非應響也而
響自滿之

山びこ

山びこのあまのこはあまのこ
古巻一十人一首 新 新 新
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
新 新 新 新

あまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

伊勢

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

後撰集一

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

伊勢

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

一

あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ
あまのこはあまのこはあまのこ

四不可得經云 人則計竊至大山
無人之處壁山而解入中還合無常
之對安知吾處
万葉十一
高山之石本濺千逝水之音雨者不
立戀而雖死
增壹阿舍經第五十云大石山縱廣
一由旬高一由旬設有久來手執天
衣百歲一拂

家

視斧柯爛盡既歸無復時人
拾遺雜戀

白居易賣炭翁詩云賣炭翁伐薪燒
炭南山中滿面塵灰煙火色兩鬢蒼
蒼十指黑
白居易
大和山小野山あな名不
くは後ふおわくあり

富士のふかき山を登りて見れば
たゞのふかき山を登りて見れば

續詞戀上 代冬垂盛 家
燒炭のふかき山を登りて見れば

元良親王集
あまのふかき山を登りて見れば

たゞのふかき山を登りて見れば

此名誤也

後雜四 北邊左大日
あまのふかき山を登りて見れば

わが

夫雜三 一人一人 興色
あまのふかき山を登りて見れば

あまのふかき山を登りて見れば

武藏
あまのふかき山を登りて見れば

源河院百首 源朝臣師頼

あまのふかき山を登りて見れば

催 伊勢
あまのふかき山を登りて見れば

新平惠三 代徳三 夫雜三 一人一人
あまのふかき山を登りて見れば

あまのふかき山を登りて見れば

夫雜三
あまのふかき山を登りて見れば

たゞ

あまのふかき山を登りて見れば

至 新平惠三 夫雜四 一人一人 古今入苑集
あまのふかき山を登りて見れば

第五重出 大和
あまのふかき山を登りて見れば

傳未詳

枕草紙系はくしん條よりある
こがふくしん

あまのふかき山を登りて見れば

夫秋三 槿 夫 一人一人 夫 一人一人
あまのふかき山を登りて見れば

あまのふかき山を登りて見れば

あまのふかき山を登りて見れば

あまのふかき山を登りて見れば

玉葉秋上

人丸

かろふのさむしあはれうらなむさし
雲のくさくさまはらうづきあふ

五十拾雜秋 夫秋五篇 又雜三回
くさくさまはらうづきあふ

くさくさまはらうづきあふ
くさくさまはらうづきあふ

袖中抄卷十六云みづからみづから
林の西のありてはさきさきのとき
みづからみづからみづからみづから

後雜二
山城
みづからみづからみづからみづから

照宣公男
仲平公

蜻蛉日記

みづからみづからみづからみづから
本草和名云馬鞭草蘇敬注云穂類
鞭鞘故以名之和名又木都々良

夫雜三
萬一中皇命 夫雜三
第五重出 陸奥
みづからみづからみづからみづから

山城
みづからみづからみづからみづから

もろ

あはれ

新古今戀四

定家朝臣

まろびぬうらなむさし
あはれうらなむさし

古雜上
新撰 朝重之 第六重出
あはれうらなむさし

鹿人太夫女

夫秋六
あはれうらなむさし

同雜四
あはれうらなむさし

同
あはれうらなむさし

續後撰
あはれうらなむさし

夫秋六
あはれうらなむさし

同
あはれうらなむさし

万七
夫春六
あはれうらなむさし

夫春五
あはれうらなむさし

古今秋上

あはれうらなむさし

あひの山をたふしあひびこにおんひハ
やまのいしを踏むふしひうける
あれバ夫木のうらやう

いそめの森未勘但新勅撰に
いそでいしとあれいそでのあやま
てんまやあ〜ん

古今秋下
神宮月あふれいそひあふあふあ
下同

拾遺雑春
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

夫雑四よん人にんのあき後
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

後徳元方
夫夏三蟬又雑四よん人にんのあき後
新勅撰四よん人にんのあき後
いそひあふあふあふあふあふあ

家持集
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

家
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

後雜二家 第六重出
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

同家
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

社

万七
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

古徳一 新撰
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

万十三
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

同
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

此ゆふけのうらやまの例の二そを一そ
みまあやまのうらやま
古今誹諧
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

伊勢物語
いそひあふあふあふあふあふあ
いそひあふあふあふあふあふあ

おほい人のえま〜わ〜せん

古徳五 よみ入 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

はしむる

古今戀一 よみ入 拾徳三家 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

同旅頭歌 同 夫春五苗代貫之家 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

以上三首

費え

おとこはあはれおとこはあはれおとこはあはれ

秋の田

ひさし

万九 拾雜秋 人丸集 第三重出 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

費え

桂海堂志云民戸強壯可教勸者謂之田子田丁

續古夏家朗 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

秋の田

貫之家 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

万八家持 家 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

古徳一 よみ入 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

鳥城製 津彦女

万二 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

はしむる

古徳二 新撰 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

まじ

新續古徳二 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

五十 第一出 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

曾丹集 秋の田をあらはせしむる人の子ら哉

和名抄類唐韻云糟讀於呂賀於
比俗云自生稻也

順集
子田の子田をりまらぬあぢあぢけしあぢあぢはるる

ほづのりし
天武天皇御子

万二
秋の田はほむけのまきうらうらふまらうらふあぢあぢはるる

秋の田

あまをそくくしあぢあぢはるるあぢあぢはるるあぢあぢはるる
あぢあぢはるるあぢあぢはるるあぢあぢはるるあぢあぢはるる

かりほ

万十新吉秋下家
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ

拾雜秋代秋下家
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ

しゆせ

此法歌うまそはあぢあぢはるる改祝
抄うまそはあぢあぢはるる改祝

和名抄羽族名柏負鳥萬葉集云其
以奈於保
世止利
と抄うまそはあぢあぢはるる改祝

古事記神代卷云久延昆古者於今
山田之曾富勝者也此神者足雖不
行盡知天下之事也云
宣長云さてる富勝は後の歌よるる

代秋上家
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ

万十う四方
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ

同玉族八九
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ

て督て督
舒明天皇御子

後秋中
かりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほかりほ

いなおほせ

たがみま

古秋下新方家
いなおほせいなおほせいなおほせいなおほせいなおほせ

人丸

同秋上
人丸人丸人丸人丸人丸人丸人丸人丸人丸人丸

おほほ

夫秋三秋田
おほほおほほおほほおほほおほほおほほおほほおほほ

皇...の...興...抄...田に
お...人形...
後撰秋上
あ...
...

齋宮女御集
十...の...
...

袖中抄...
...
...

秋の...
...
...

...
...

家
...

續千春...
...

...

古春下貫之
...

...

夏の歌
人...

万四...
...

...

秋の歌

古徳二貫之家
...

...

...

以上

...

...

...

...

狭衣三

あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら
書紀仁徳紀云四十年秋九月依
網屯倉阿弭子捕異鳥獻於天皇
天皇召酒君示鳥曰是何鳥對言
百濟俗號此鳥曰便知時乃授
酒君令養馴酒君則以韋縉著其
足以八鈴著其尾居腕上獻天皇

契沖云さへてらひ初た躍る
きりりりりりりりりりりりりりり

金葉戀下
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき
ゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆきゆき

契沖云きりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり

此ら新拾遺と朗詠ふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
ふらふらふらふらふらふらふらふらふらふら
作者を丹後山人とまゐられし
より不ありてらおつたあ

後雜下
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら
代應一
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

辨ラカヌ 河舟 綴
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

同十九家持 夫春五
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

同十夫春五雜人左
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

大夫雜二
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

たし

うら

万四 夫秋五
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

古雜下
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

晋之集 夫冬三鷹
あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

あつたをたやたのきんもたつたの
ひらひらひらひらひらひらひらひら

貫之集 第六重出

葉のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

以上 卷十一

葉二下

古撰 旅業平 伊新撰 家

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

同 紀有常 伊古本 業平集

ひのよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

万九 新拾離別家持 夫秋五元輔 貫之集

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

小唐のころり

夫秋二秋 伊勢

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

後拾秋五元輔 貫之集

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

拾秋貫之家

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

家

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

同

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

以上

葉二上

第六重出

かりのよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

葉二下

葉二下

古春下 新撰 家

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

万十 夫春五野遊 貫之集

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

同 家持集

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

同 赤人集

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

葉二上

家

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

後春下 夫春五野遊 貫新方八

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

同 寛八

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

同 後新

花のよしのきりぎりすのさかきとてかきかき人のこゝろ

契沖云々... 四重の歌... 野の... 歌の... 十八首... 野遊の... 契沖云々... 四重の歌... 野の... 歌の... 十八首... 野遊の... 契沖云々... 四重の歌... 野の... 歌の... 十八首... 野遊の...

齋宮女御集

人をねらふついでにやうきさう
あつたにたまふふさきまはる

めぐりてはもまたなるとかきりてはしるしめをいぬ
夫雑九
くひ人のすくはるるをさきついでにふさきまはる

わいせし

舟ぎらふは川のせまにまをさかまをりてはるるをさき
五千 夫雑九

人九

ふさのたふらふをさかまをりてはるるをさき

いせ

山にのぼるはさかまをりてはるるをさき
古雑下 後雑四家

おれ

とまのあはれをさかまをりてはるるをさき
新 雑下家

光孝天皇
皇子

後撰よりさう三亭子院法門あり
珍らしきもの秋弘後殿のむす

もさきかの大宮をりて冠帯あり
されどはるるやいひあれてさき
のさきかの大宮をりて冠帯あり
後撰より三内よりさきかの大宮をりて冠帯あり
せうしるるをさきかの大宮をりて冠帯あり
さきかの大宮をりて冠帯あり
さきかの大宮をりて冠帯あり

おつけき
伊勢

法門はるるにさきかの大宮をりて冠帯あり

後雑別 伊勢集 大鏡 大
このさきかの大宮をりて冠帯あり

人九

万三 長秋末也
ふさのたふらふをさかまをりてはるるをさき

もさかまをりてはるるをさき

中絶 石川 左大井石足男

万九
さきかの大宮をりて冠帯あり

ひさし

万十 拾雅意人九 古本を集 せう拾葉
山にのぼるはさかまをりてはるるをさき

同十三
さきかの大宮をりて冠帯あり

夫雑三山より人九
さきかの大宮をりて冠帯あり

はるるをさきかの大宮をりて冠帯あり

人九集

さきかの大宮をりて冠帯あり
まの信明集

和名抄政獵具云爾雅云鳥罟謂之羅和名度
羅和名度
 初學記引風俗通曰南陽郡縣有甘谷水甘美其山上有大菊水從山上流下得其滋液谷中有三千餘家不復穿井悉飲此水上壽百二十中壽百餘七八十者名大菊花輕身益氣令人堅強故也云按す今の風俗通は此文ウケたり
 古今長歌 忠峯
 かなへのうらたうらあめのなみの
 あじよやおりまけん云

古雅下イ伊 新撰
 あはれいづる何れもいづるあはれや任せ人のまはれぬ
 新勅春三貫之家 新撰廿
 こころもあまきちあはれいづるまはれぬまはれぬまはれぬ
 家
 いまはあはれいづるやうらなれぬまはれぬまはれぬ
 同 夫雅九鳥
 よしよふもあはれいづるまはれぬまはれぬまはれぬ
 同
 つばきの花あはれいづるまはれぬまはれぬまはれぬ
 同
 つばきの花あはれいづるまはれぬまはれぬまはれぬ
 以上五首 伊勢

家
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 伊勢
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 伊勢

寛平歌合
 日かやいづるあはれいづるまはれぬ
 いづるまはれぬまはれぬまはれぬ

後頁イイ 伊 新撰
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 代憲四貫之家 夫雅兼憲
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 古雅下イイ 伊 新撰
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 新撰
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 伊勢

契沖云やどハ体ニ居不ヤハハ
 こふまおたまるこころあはれいづる

古秋上 家
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 同 秋下イイ 伊 新撰
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 古古
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 續古雅上 遍照
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ
 古春下
 まはれぬまはれぬまはれぬまはれぬまはれぬ

人のよめうらむかめりしつゝ
まてきりの枝とくもるもつら
らハハなるよそそふ

山田條四出
田のあめ人あはきげんははら
ゆめさふれやハ

かきん

古雅下拾雅上
らきせの門ちやんもんあは
ゆめさふれやハ

万土 第四重出
あふのあふふくおまひま
かきんかきん又出めや

戸

古徳田よんも
あやらんとあやめんのや
まひの板戸をさでゆめり

河空蟬
風吹く人まひり戸ハさ
あふんとあふりひてものを

てれろのちまひり
あふりあふりあふりあふり

万土
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

同十 赤人集
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

同土 續後拾雅三入九 大雅三 古本人集
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

第五帖 そりり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

万葉十
千葉破神之伊垣毛可越今者吾名
之惜無

同四
於久夜腐能真木乃伊多度乎等狩
登之氏和可比良加武爾伊利伎氏
奈左祢

後意田
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

後意田
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

万土 夫雅十四
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

中絶り

後撰 伊平公の
あふりあふりあふりあふり
あふりあふりあふりあふり

ハ

万葉十一
難波入草火焼屋之配四手雖有巴
毒許曾常目類次吉

古亭田 後意三家
同秋上よ
古

そわい

常ヲカヌ
伊勢

伊勢

家
家

しゆれ

家
古徳二素性 家

古家
古家

むーろ

新千意二
古家
古家

同七
大和
同土 新勅意四
人九集
玉解の道ゆきつれ指巻一を案とも思ふ人よむの
おちたよ

おちたよ

同
古雑上棟梁 寛新方
越前
新

同
夫雑七
おちたよ

同
おちたよ

同
おちたよ

おちたよ

後雜一伊 第五重出
おちたよ

おちたよ

同冬 家 古本兼捕集
おちたよ

童蒙抄卷四云翁さびはかまきまあや
ひくさきかまきまされもいふら
袖中抄卷五云翁さびはかまきま
云初くさすさびあやハたまあや
心や云久保之取地尾云さびあ
不さき古事記神代卷小勝佐
備延佳云佐備發請之意云この
かちさびはかちほこさきこの説

よつー

家持集
白くくのももがくち梅がくく
くくくくくくくくくく

かぶさくの中納

同 古本集 貫之集
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

同 同
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

はくく

續後拾雜上 家 代雜二ぬくくくく
くくくくくくくくくく

貫之集
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

業平

後雜二 古本集
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

とく

古雜上 家
くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

東三條のたち
嵯峨天皇
皇子常公

催馬樂

まゆめをくくくくくく
めくくくくくくくく

同 春上 第六重出

くくくくくくくくくく
くくくくくくくくくく

朝恒集

おいぬがくくくくく
くくくくくくくくく

夫雜十二 出家
の家夫

かひくくくくくくく
くくくくくくくくく

くく

拾雜春 古本集

くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

くく

万二

くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

かお村

夫雜七 藤原匡房

くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

くく

万四

くくくくくくくくく
くくくくくくくくく

夫木の名あやまり 忠房とあるべき
あく匡の字ふまーあまー

夫雜七 藤原匡房

くく

和名抄牛馬類云辨色立成云特牛

後雜二兩庄の〜大

我の〜〜〜〜〜
思ひり〜〜〜〜〜
か〜〜〜〜〜
命を〜

俗語云頭大牛也

夫雜九牛〜

〜〜〜〜〜
牛あ〜
面〜
〜
〜

夫木雜十五車 源仲正

夫雜九牛〜

〜〜〜〜〜
〜
〜

我々〜

〜

〜

今抄すふ此抄せ〜

万三葉朝臣金村 夫雜山

〜
〜
〜

四ふ久撤故之雨武藝波武古宇馬乃

近江

〜
〜
〜

皮部波部雨安比見之兒良之安夜

同王 古本九九集

〜
〜
〜

雨可奈思母とある〜

万士

我弱の〜
〜
〜

吾もい〜

あり万

〜
〜
〜

契沖云〜

同七 拾遺四八九 家

〜
〜
〜

又掃〜

夫雜收〜

〜
〜
〜

乃あ〜

夫雜收〜

〜
〜
〜

物〜

夫雜收〜

〜
〜
〜

難〜

夫雜收〜

〜
〜
〜

書紀欽明紀云七年秋七月倭國今

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

來郡言中畧乃見良駒及壯鴻鶯籠

寺

〜
〜
〜

者別輩越郡服御隨心馳驟合度超

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

度大内丘之登十八丈焉云

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

仲哀紀ふ十尺をヒトツエとあり万

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

葉十三に杖不足八尺乃襲とつり

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

たつも十尺を一枚とすれと云ふ

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

十丈をどつと云ふ

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

説文云驃馬七尺為驃

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

枕草紙云〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

ふん〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

くもの〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

後撰秋下

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

本の〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

くもの〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

伊勢集〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

け〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

あ〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

時の〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

く〜

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

置漏冠於新臺始打候時動鐘鼓始

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

用漏尅云

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

袋四沐浴尚稚鐘誦文歌 歌上

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

か

延喜六年竟真三善清行

〜
〜
〜

公五廿九 傳赤詳

和名抄琴瑟類云日本琴體似箏而短小有六絃俗用倭琴二字夜萬止

五回 夫雜古家持

和名抄琴瑟類云日本琴體似箏而短小有六絃俗用倭琴二字夜萬止

古雜

伊勢少持 古之子

後冬増基法師 新朝素雅

同雜一素性 家

伊勢少持

後冬増基法師 新朝素雅

同雜一素性 家

後冬増基法師 新朝素雅

同雜一素性 家

後冬増基法師 新朝素雅

同雜一素性 家

二九

伊勢少持

古止と云 大和物語

古止と云 大和物語

古止と云

莊子逍遙遊云藐姑射之山有神人居焉肌膚若冰雪綽約若處女不食五穀吸風飲露乘雲氣御飛龍而遊乎四海之外云

莊子逍遙遊云藐姑射之山有神人居焉肌膚若冰雪綽約若處女不食五穀吸風飲露乘雲氣御飛龍而遊乎四海之外云

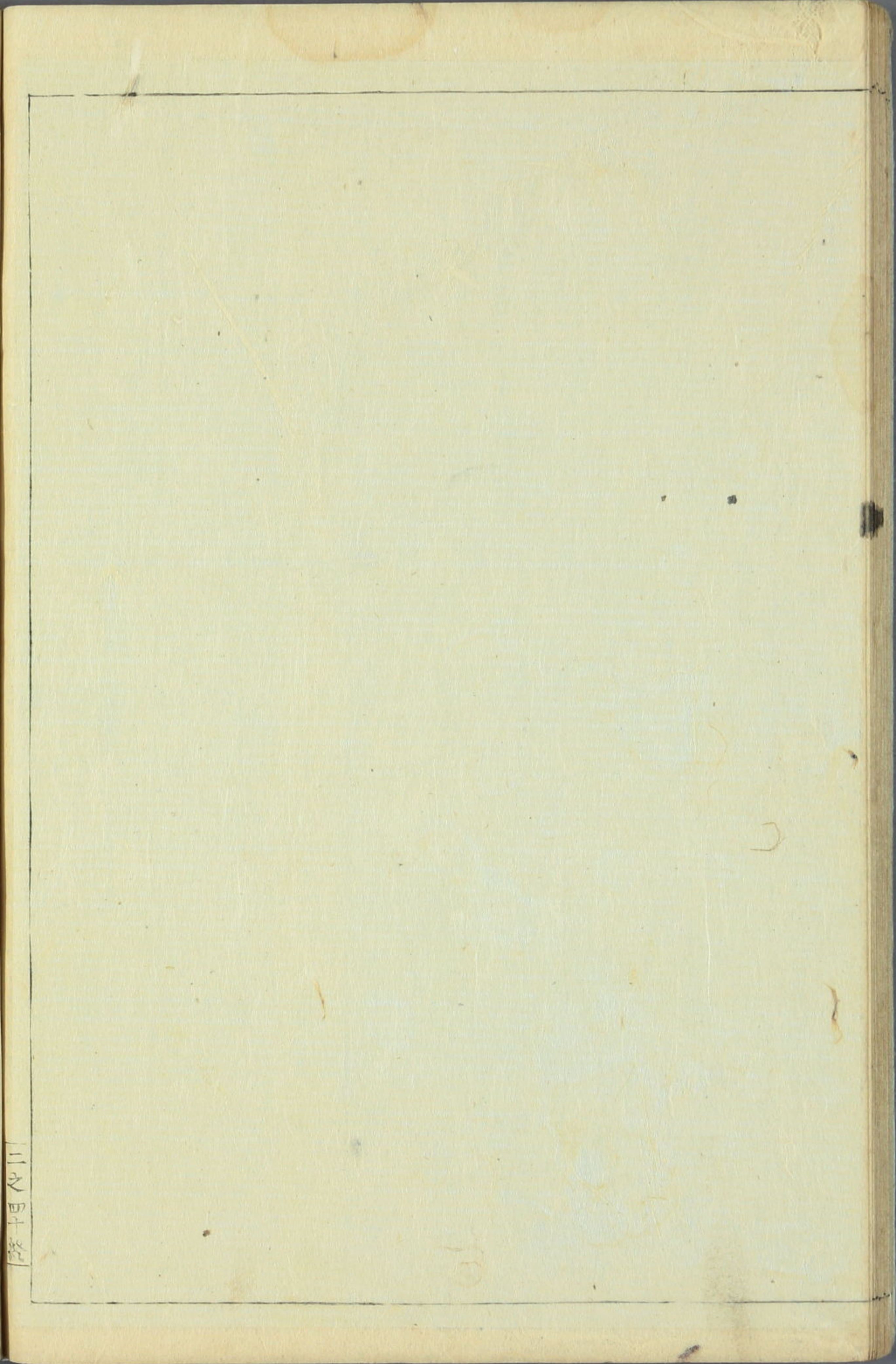
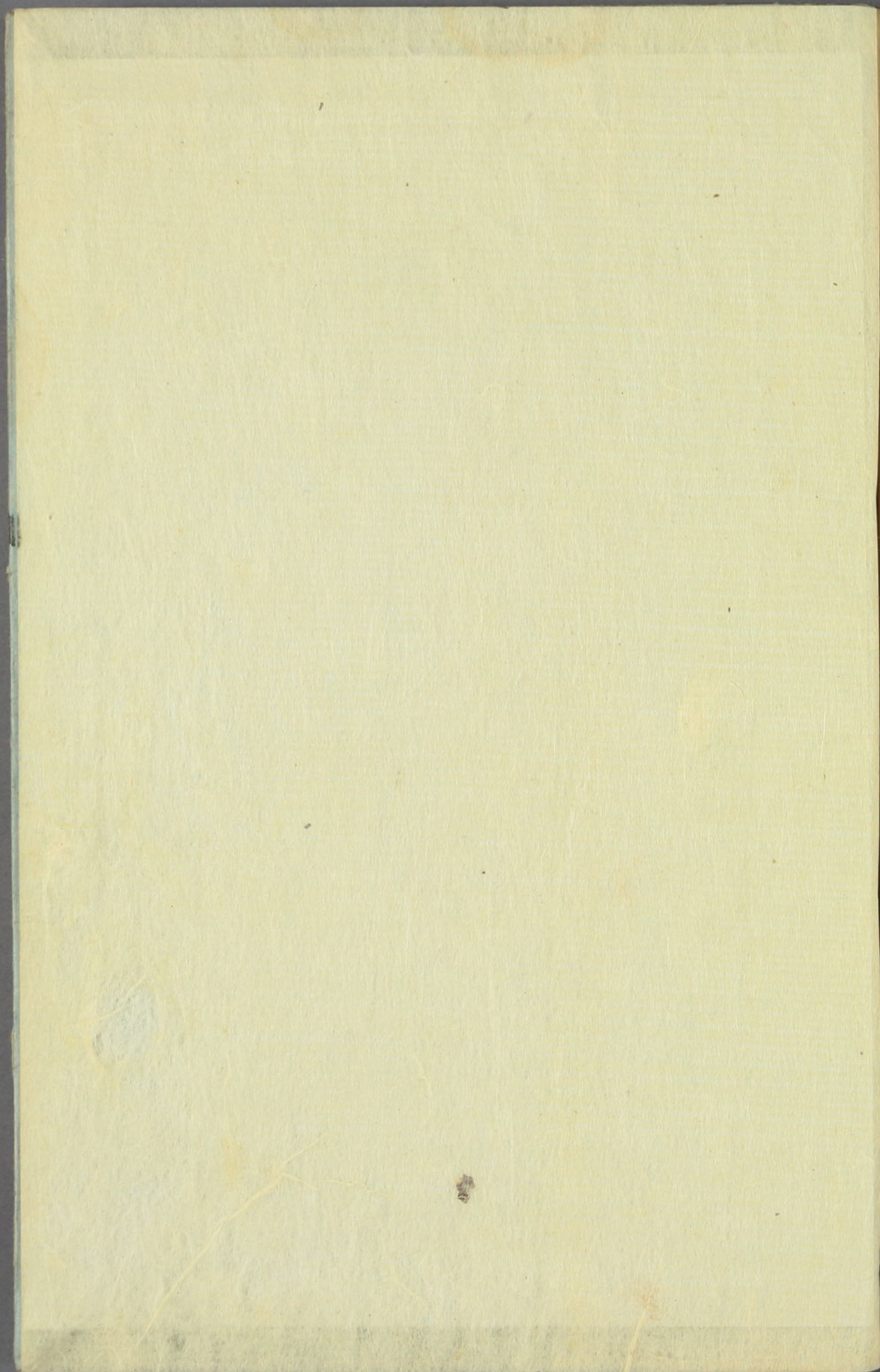
伊勢少持

拾遺物名この一ま まけ

拾遺物名この一ま まけ

拾遺物名この一ま まけ

拾遺物名この一ま まけ



三十四

